2020年度 環境報告書

1. 適用対象事業所の概要

当社は、下記の国内4事業所及び蘇州惠普聯電子有限公司を環境管理の管理組織体と称して、5 管理組織体毎に、事業活動、製品及びサービス領域における環境マネジメントシステムの確立、運用管理、監視、改善活動を継続的に推進し、環境パフォーマンスの向上に努めています。

また、当該年度に外部審査機関(BSI-GJ)によるISO14001 のサーベイランス審査が行われました。審査は年1回、規定に沿って実施され、「法規制・その他要求事項チェックシート」で問題の無いことが確認され、認証が継続継続されています。

[適用事業所]

a. 本社・八王子事業所(HHdiv)　b. 入間事業所(IPlant)　c. 大阪事業所(Odiv)　d. 上野事業所(SSdiv)

e. 蘇州惠普聯電子有限公司[中国江蘇省](SZE):

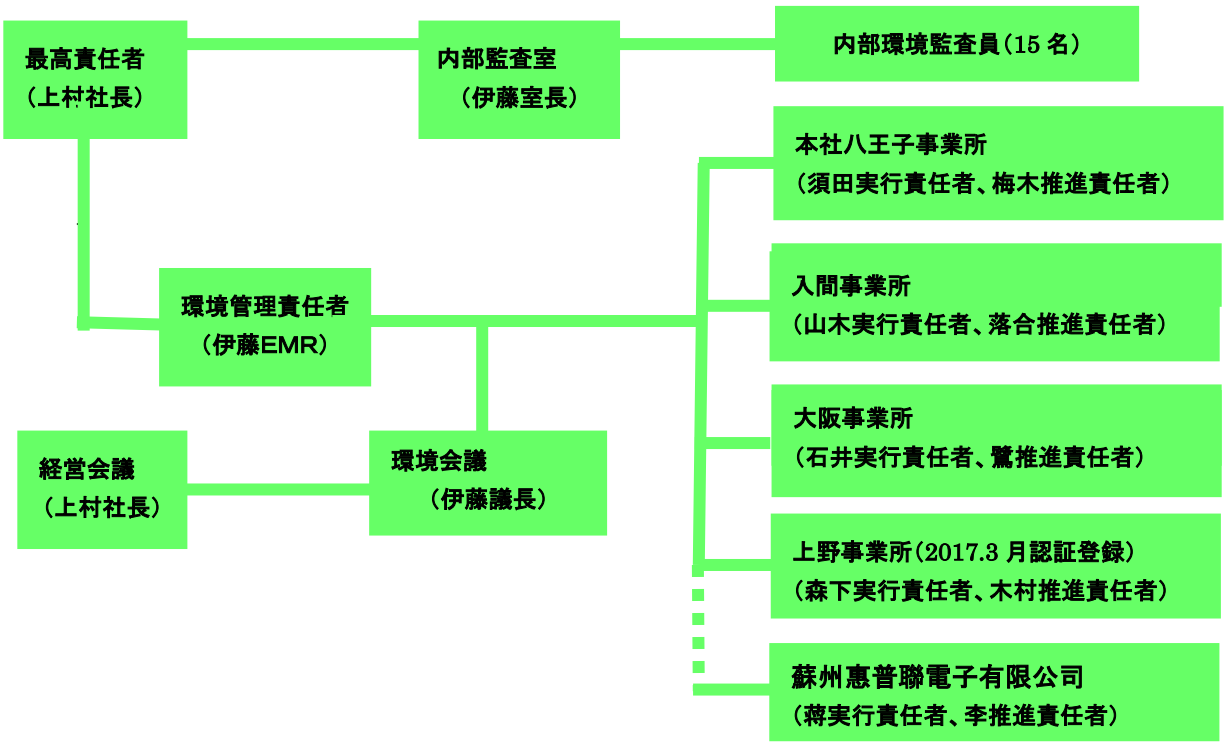
2. 環境保全への取組み

1) 環境活動の歩み

2003.05 月	SONY 様の GP(グリーンパートナー)認証取得。(対象:八王子事業所、CBS 統括事業部)
2003.7 月~ 2004.2 月	ISO14001 取得に向けて、社長キックオフ宣言。ISO 認証取得プロジェクトを発足し、4 ワーキングチームを軸に推進活動を実施。内部環境監査員セミナーを実施。(社内認定者:6 名) 管理組織体毎に、環境側面抽出・特定、目的目標の設定、環境マネジメントプログラムを作成し、運用管理、監視測定を推進。
2004.1月~3 月 →2004.6 月	審査機関による「ステージ1審査」、「ステージ 2 審査」を受審し、ISO14001 登録証(国内3拠点)を受領。(登録番号 c2004-01417)。 ＊認証機関は、PJR㈱
2004.6 月~10 月 →2005.2 月	中国・蘇州の ISO14001 拡大取得に向け社長キックオフ宣言し、取得推進活動を開始。 中国蘇州の ISO14001 拡大審査を受審、拡大登録証を受領。(登録番号 C2005-00331 この結果、国内3拠点と中国1拠点(蘇州惠普聯電子有限公司)の認証取得が完了。
2005.4 月~ 2005.12 月	年 2 回のサーベイランス審査を受審し、EMS維持活動を推進。 内部環境監査員を1名増員。(社内認定登録者:7 名)
2006.2 月~ 2006.4 月	2004 年規格へのアップグレード審査受審し、認証登録完了。(登録番号 C2006-01334) アップグレード審査に合せ、大阪事業所小松分室のサイト拡大審査を受審、合格。
2006.4 月~5 月 2008.1 月~	更新審査、認証登録の更新完了。 有効期限 2010 年 6 月迄。(登録番号 C2007-01290) 「チームマイナス 6%活動」に参加登録し、具体的な活動推進。
2008.6 月~ 2008.10 月	当社のグリーン調達ガイドライン(AO1003-OP)を制定し、運用開始。 大阪事業所小松分室を閉鎖、サイト縮小を実施。 内部監査員の 4 名増員。(合計12 名)
2010.2 月~4 月 2010.3 月~6 月	「エコキャップ活動」と「C25 キャンペーン活動」に賛同、宣言登録し、具体的な活動推進。 更新審査、認証登録の更新完了。 有効期限 2013 年 6 月迄。(登録番号 C2010-01145)
2012.1 月	SONY 様 GP(グリーンパートナー)再認証取得。(対象:八王子事業所、CBS 統括事業部) (有効期限 2012.1.31 → 2012.1 月登録更新済:以降毎年更新)
2013.3 月~5 月	4 サイトの再認証審査を受審、認証登録の更新完了。
2014.4 月~5 月	PJR 認証機関の中国登録審査継続不可となり、新認証機関 BSI-GJ へ移転決定して、移転審査受審の結果、新認証機関 BSI-GJ㈱への移転認証登録が完了。

2015.4 月~（2016.12 月）	新たなビジネス領域の上野事業所（旧タンバック社）について、EMS 認証サイト追加に向け、認証取得プロジェクト推進活動を開始。 上野事業所の規格理解度と運用管理定着度の評価のために、2016.9～12 月の期間、事前チェックと結果のフォローアップ及び内部監査を実施し本番審査に備えた。
2016.2 月~3 月	認証取得推進活動の一環として、上野事業所の事業所移転を 2016.2 月に実施し、職場オフィイス環境の再構築とインフラ整備に取組み、期待以上の成果を得た。
2016.3 月~4 月	上野事業所を除く、4 サイトの再認証審査を受審し、認証登録の更新完了。
2016.8 月 ~2017.3 月	2015 年規格対応、登録に向け、内部監査員とEMS 活動要員に対して、計画した外部のオンサイトセミナーを受講、修了し、新規格の理解度向上を図った。また、2015 年規格対応の環境マネジメントマニュアルを制定し、運用管理を開始。
2017.3 月	上野事業所のサイト追加拡大審査を受審し、認証登録が完了。
2017.7 月 ~2018.3 月	ISO9001 2015 年規格移行審査を 2017.7 月に受審、及び、ISO14001 2015 年規格移行審査を 2018.3 月に受審。全5サイトとも認証継続。
2019.3 月	ISO14001 再認証審査を受審し全5サイトとも認証継続。 EMS維持活動を推進。
2019.12 月	EMS 管理責任者を小保方から伊藤に交代。
2020.2 月	ISO14001 サーベイランス審査を受審し全5サイトとも認証継続。 EMS維持活動を推進。
2020.12 月	内部監査員を 3 名増員。（合計15 名）
2021.2 月	ISO14001 サーベイランス審査を受審し全5サイトとも認証継続。 EMS維持活動を推進。

2） 環境管理組織（2020 年度）



3） 環境方針（2020 年度）

環境方針

環境理念

私達は、地球環境保全が21世紀における人類の最も重要な課題の一つであることを認識し、地球環境保全と将来の世代の夢が守られる持続可能な社会の義務にむけ、積極的に貢献を行っていきます。

環境方針

1. 産業用コンピュータシステムに関する事業活動を通じ、省資源、省エネルギー、廃棄物の減量、有機溶剤消費の削減を行い、環境負荷の軽減に努めます。
2. 環境配慮設計及びグリーン調達に取組み、有害物質の使用を避け、RoHS適合製品の提供を推進（鉛フリー等）し、有益な環境側面の創出に努めます。
3. 継続的な環境改善と汚染の予防に努めます。
4. 法規則、顧客要求・その他要求事項を順守し、環境保全を推進します。
5. 環境目的、目標を設定、運用管理、監視・測定し、必要に応じて見直しを実施します。
   環境パフォーマンスの向上のため、定期的なレビューを行い、環境マネジメントシステムの継続的改善活動を推進します。
6. この方針は文書化し、実行維持し、全従業員と当社のために働く人に周知徹底します。
   また、社外からの人々の要求に対して、開示します。

制定　　2020 年　04 月　01 日

エブレン株式会社　代表取締役社長　　上村　正人

4） 方針、目的目標及び活動実績の概要

2020 年度の ISO14001EMS 活動は、2015 年規格のマネジメントシステムの適合、運用定着活動と有益な環境側面の創出を含めた環境パフォーマンス向上活動へ継続的に取組みました。
特に、2015 年要求規格ポイントの「組織の状況、リーダーシップ、リスク及び機会への取組み」について、意識的に取組むとともに、定着に努めております。

推進のポイントは従来同様、継続的に、一つは法規制と同意するその他要求事項の順守活動、二つ目はお客様へ環境に配慮した製品の提供及び製品の規制物質などの有害含有物を削除、削減を行い、RoHS 指令等に適合した製品創出活動、三つ目は快適な職場環境の改善実現活動及び環境の負荷低減、減量、維持管理活動です。

本年度も環境省の COOL CHOICE 活動に登録し、「スーパークールビズ活動」と「ウォ―ムビズ活動」を継続的に推進し、電力使用量の削減及び CO_2 の削減に努め、今期も電気料金抑制に取組み、成果（2007 年比）を得ました。ただし、売上高増加に伴う工場稼働率がアップしたものの、燃料調整費のマイナス幅が大きく、前年より電気料金は、削減されています。電力量は、季節変動によるエアコン使用率に大きく影響されますが、節電活動は維持継続されております。

また、今期も滞留資産のトレンド管理、分析を行い発生抑制の継続的改善に取組み、増加抑制活動の具体的な成果が得られました。 併せて、継続的に廃棄物の処理費用発生から有価物としての売却化に取組み、成果を得ております。

引続き、著しい環境側面、リスクを踏まえ有益な環境側面の創出活動を軸にした環境管理への取組みを経営方針の一つとし、事業活動との融合を図り、環境管理費用の低減と環境保全活動を推進しております。

5） 2020 年度の実績評価

①改善推進テーマ

推進テーマ	管理組織体	目標値	実績値	判定	達成率
有益な工場環境の実現（モデル工場）	HHdiv	8.0 件の改善実行[5S 維持管理]	8 件改善完了	○	100%
	HHdiv	4.0 件の改善実行[安全環境配慮製造ﾗｲﾝ]	4 件改善完了	○	100%
	HHdiv	24.0 件の改善実行[変種変量製造ﾗｲﾝ]	66 件改善完了	○	275%
	Iplant	8.0 件の改善実行[機能的安全快適な工場環境実現]	8 件改善完了	○	100%
	IPlant	24 件の改善実行[社内資産で効率的な作業環境実現]	26 件改善完了	○	108%
	Odiv	12 件の改善実行[3T 実施と継続]	12 件改善完了	○	100%
	Odiv	12 件の改善実行[5S 実施と継続]	13 件改善完了	○	108%
	SSdiv	06 件の改善実行[安全快適効率的なｵﾌｨｽ環境改善]	6 件改善完了	○	100%
RoHS 対応製品の供給	SZE	部品 24 件以上環境負荷物質の含有物調査]	26 件完了	○	108%
不良資産の発生抑制	SSdiv	12 件の改善実行[資材調達方式改善]	12 件改善完了	○	100%
仕損じ撲滅活動	HHdiv	1,480,000 円以下	3,473,355 円	×	235%
	Iplant	120,000 円以下	236,339 円	×	197%
	Odiv	780,000 円以下	349,330 円	○	45%
	SSdiv	320,000 円以下	339,019 円	△	106%
	SZE	24,000 円以下	8,223 円	○	34%

②継続監視テーマ

推進テーマ	管理組織体	監視基準値(125%)	前年実績値	実績値	前年対比率	判定
資源枯渇抑制（電力使用量）	HHdiv	197,815kWh 以下	158,252kWh	160,315kWh	101.3%	△
	IPlant	93,274kWh 以下	74,619kWh	75,635kWh	101.4%	△
	Odiv	135,214kWh 以下	108,171kWh	103,839kWh	96.0%	○
	SSdiv	50,123kWh 以下	40,098kWh	39,079kWh	97.5%	○
	SZE	15,894kWh 以下	12,715kWh	13,513kWh	106.3%	△
資源枯渇抑制（最大需要電力）	HHdiv	82kw	77 kw	74 kw	90.2%	○
	IPlant	54 kw	54 kw	56 kw	103.7%	△
	Odiv	89 kw	89 kw	79 kw	88.8%	○
	SSdiv	80 kw	76 kw	83 kw	103.8%	△
RoHS 対応製品の供給（鉛フリー化推進）	HHdiv	34.48kg 以下	27.58kg	14.04kg	50.9%	○
	Odiv	13.75kg 以下	11.00kg	0.50kg	4.5%	○
資源枯渇抑制（ガソリン）	HHdiv	13.20km/ℓ 以上	16.50km/ℓ	16.34km/ℓ	99.0%	△
	Iplant	7.59km/ℓ 以上	9.49km/ℓ	10.08km/ℓ	106.2%	○
	Odiv	15.80km/ℓ 以上	19.76km/ℓ	17.44km/ℓ	88.3%	△
	Odiv	7.07km/ℓ 以上	8.84km/ℓ	7.98km/ℓ	90.2%	△
資源枯渇抑制（用紙）	HHdiv	337,500 枚以下	270,000 枚	289,000 枚	107.0%	△
	SSdiv	20,625 枚以下	16,500 枚	9,000 枚	54.5%	○
	SZE	28,125 枚以下	22,500 枚	23,000 枚	102.2%	△
資源枯渇抑制（水道）	HHdiv	738ｋｇ以下	382 ㎥	359 ㎥	94.0%	○
	IPlant	3,540ｋｇ以下	110 ㎥	115 ㎥	104.5%	△
	Odiv	1,088ｋｇ以下	252 ㎥	277 ㎥	109.9%	△
	SSdiv	271ｋｇ以下	145 ㎥	126 ㎥	86.9%	○
資源枯渇抑制（廃棄物、有価物）	HHdiv(一般)	738ｋｇ以下	590ｋｇ	480ｋｇ	81.4%	○
	IPlant(一般)	3,540ｋｇ以下	180ｋｇ	130ｋｇ	72.2%	○

	Odiv(一般)	1,088ｋｇ以下	870ｋｇ	130ｋｇ	14.9%	○
	SSdiv(一般)	271ｋｇ以下	217ｋｇ	197ｋｇ	90.9%	○
	HHdiv(産業)	5,583ｋｇ以下	4,466ｋｇ	3,791ｋｇ	84.9%	○
	IPlant(産業)	4,873ｋｇ以下	3,898ｋｇ	2,155ｋｇ	55.3%	○
	Odiv(産業)	7,475ｋｇ以下	5,980ｋｇ	3,320ｋｇ	55.5%	○
	SSdiv(産業)	0ｋｇ以下	0ｋｇ	0ｋｇ	100.0%	○
	Odiv(ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙ)	5,156ｋｇ以下	4,125ｋｇ	3,710ｋｇ	89.9%	○
	HHdiv(有価)	-	1,383ｋｇ	496ｋｇ	35.9%	－
	IPlant(有価)	-	72ｋｇ	0ｋｇ	0.0%	－
	Odiv(有価)	-	880ｋｇ	790ｋｇ	89.8%	－
	SSdiv(有価)	-	0ｋｇ	0ｋｇ	100.0%	－
	SZE(有価)	-	14,880 円	19,552 円	131.4%	－

③電力使用量と CO_2 削減成果（スーパークールビズ活動／ウォームビズ活動、2007 年比）

部門	HHdiv	IPlant	Odiv	SSdiv	国内計	SZE	全社.計
削減電力量（kWh）	89,745	67,432	60,086	13,478	230741	9,826	240,567
削減経費（円） *1	2,090,161	1,570,492	1,399,403	313,902	5,373,959	228,847	5,602,806
削減 CO_2（Kg） *2	39,578	29,738	26,498	5,944	101,757	4,333	106,090

*1：平均電気料金は、23.29 円/ kWh、

*2：CO2 排出係数は、0.441kg-CO2/kWh

④前年（2019 年度）比、電気使用量の削減成果＝ 天候依存傾向が強いが、昨年と平均値では差はなし

部門	HHdiv	IPlant	Odiv	SSdiv	SZE	全社計
2019 年度電気使用量（kWh）	158,252	74,619	108,171	40,098	12,759	393,899
2020 年度電気使用量（kWh）	160,315	75,635	103,839	39,079	13,513	392,381
前期比抑制電気使用量（kWh）	-2,063	-1,016	4,332	1,019	-754	1,518
前期比電気使用量抑制率（%）	-1.3	-1.3	4.2	2.6	-5.6	0.4

⑤前年（2019 年度）比、電気料金の削減成果＝ 昨年と同程度

部門	HHdiv	IPlant	Odiv	SSdiv	国内計
2018 年電気料金（円）	3,875,161	1,871,571	2,842,307	892,104	9,481,143
2019 年電気料金（円）	3,670,851	1,724,788	2,624,483	803,377	8,823,499
電気料金抑制金額（円）	204,310	146,783	217,824	88,727	657,644
電気料金抑制率（%）	5.6	8.5	8.3	11.0	7.5

⑥3R活動の成果

部門	HHdiv	IPlant	Odiv	SSdiv	全社計
全体排出量(kg)	4,767	2,285	4,410	197	11,659
有価物分別量(kg)	495.8	0	790	0	1,286
有価物割合(%)	10.4	0.0	17.6	0.0	11.0
有償換金(円)	60,995	0	790	0	61,785

⑦エコキャップ収集活動の成果

部門	HHdiv	IPlant	Odiv	全社計
収集量（Kg）	12.30	6.20	5.8	24.00
収集量（個数）	5,348	2,696	2,494	10,300
ワクチン：ポリオ(人分)	10.7	5.4	5.0	12.0
削減 CO2（Kg）	39	20	18.3	76

6） ISO14001:外部審査と内部監査の結果

審査、監査の区別	外部審査	内部監査					
対象部門	国内4部門	HHdiv	IPlant	Odiv	SSdiv	SZE	SONY-GP
監査期日	2021.02	202010	2020.12	2020.11	2021.01	2020.11	2021.02
監査結果(不適合/要観察 改善機会ｺﾒﾝﾄ/Good point)	0 件／0 件 10 件／6 件	0 件／0 件 2 件／1 件	0 件／0 件 2 件／1 件	0 件／0 件 0 件／1 件	0件／0件 0件／1件	0件／0件 0件／0件	0 件／0 件 1 件／0 件

7） 2021 年度の主な取り組み事項

a. 2021 年度のEMS、環境活動は、運用管理の軽量化及びスマート、自然体での推進に注力いたします。

b. 賛同した“COOL CHOICE”や各種エコ活動を推進します。（S クールビズ活動、ウォームビズ活動の定常的推進）

c. 本社八王子地区における “モデル工場化”活動を継続し、より具体的な目標と施策、到達点を明確にした活動を行い、その成果を他事業所に有効展開を図り環境品質パフォーマンス向上に努めます。

d. 資源枯渇に着眼し、滞留資産の発生抑制と生産財の無駄な廃棄の監視・改善活動を継続推進します。

e. 環境管理費用の管理方法の調査、情報収集及び低減活動を継続的に推進します。